

## 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会選手村ビレッジプラザへの秦野産木材の搬入について

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会では、環境に配慮した持続可能な大会を実現するために、国産木材を使用して選手村ビレッジプラザを建築し、大会で使われた木材をレガシーとして各地で活用するプロジェクト「日本の木材活用リレー～みんなで作る選手村ビレッジプラザ～」を立ち上げ、プロジェクトに木材を提供する地方自治体を公募しました。本市もその趣旨に賛同し応募した結果、平成29年10月に参加自治体(63)の一つとして決定を受けました。

### 1 搬入

ビレッジプラザの整備が進む中で、今年度の5月から新潟県や福島県の木材を皮切りに全国各地からの木材搬入が開始されています。

本市については、9月中旬からヒノキ材約6立方メートルの搬入が開始されます。

### 2 提供木材

ヒノキ材約6立方メートル(一般的な2階建て木造住宅[19立方メートル]に使われる木材の約3割に相当)

提供材には、産地として「秦野市」の名が明記されています。大会終了後には、本市に返還され、社会的遺産(レガシー)として、将来を担う子供たちのために有効活用する予定です。

### 3 木材の特徴

木材の一部は、秦野市立北小学校の学校林から樹齢90年を超えるヒノキを提供しています。

北小学校では、大正12年当時、校舎の建て替えに使用する木材を確保するため、2万7千本のスギ、ヒノキの苗木を植林し、学校林として児童が下草刈、つる切、枝打ちを行い、大切に育ててきました。

時代とともに木造校舎でなくなったため、現在では学校林としての役目を終えています。毎年、間伐体験等を実施するなど、児童の森林環境学習の場として活用しています。

#### **4 事業予算**

3, 699, 000円

令和元年度 3, 375, 000円

令和2年度 324, 000円

#### **5 参加経緯**

本市では、林業振興とともに秦野産木材の活用促進及びブランド化を図るための取組を積極的に実施しています。本事業への参画は、秦野産木材をPRする絶好の機会となり、取組の更なる推進が見込めることから、参加自治体として応募しました。

#### **問い合わせ**

環境共生課森林里山担当 電話0463(82)9631